

やまぐちえんてい ごうふん  
**山口堰堤3号墳 範囲確認調査**

**所在地** 瀬戸市若宮町1丁目  
 (北緯35度12分9秒、東経137度6分40秒)  
**調査理由** 道路改良工事国道248号  
**調査期間** 平成18年8月  
**調査面積** 50㎡  
**担当者** 小澤一弘・早野浩二



**調査の経過** 山口堰堤3号墳の範囲確認調査は、古墳の保存の可否、あるいはその措置を検討する目的で実施した。

**立地と環境** 山口堰堤古墳群は、3基から構成される古墳群で、矢田川右岸の丘陵斜面に立地する。周囲の丘陵上には高塚山古墳群、塚原古墳群、若宮1号墳が分布する。山口堰堤3号墳周辺の標高は、約118mである。

**調査の概要** 古墳が立地する尾根の裾付近は、段状に地形が改変されている部分が多く、墳丘についても南側や北西側はすでに改変されていると思われる。一方、墳丘北東側と西側の斜面と裾が比較的旧状に近いとすると、古墳は径14～15mの円墳として復原される。古墳の埋葬施設は、南方向に開口する擬似両袖型の横穴式石室で、石室の両側壁はすでに露出し、周囲には大型の石材が散在していた。

範囲確認調査においては、墳丘斜面に5地点の試掘坑(T.T.01～05)を設定し、墳丘の遺存状況と築成状況、外部施設の有無等を観察した。調査の結果、墳丘盛土や周溝、葺石などの外部施設は確認されず、調査の結果から古墳の規模を確定することはできなかった。古墳に関連する遺物としては、T.T.-05の墳丘側斜面下の緩傾斜面において出土した6世紀後半の須恵器蓋1点がある。

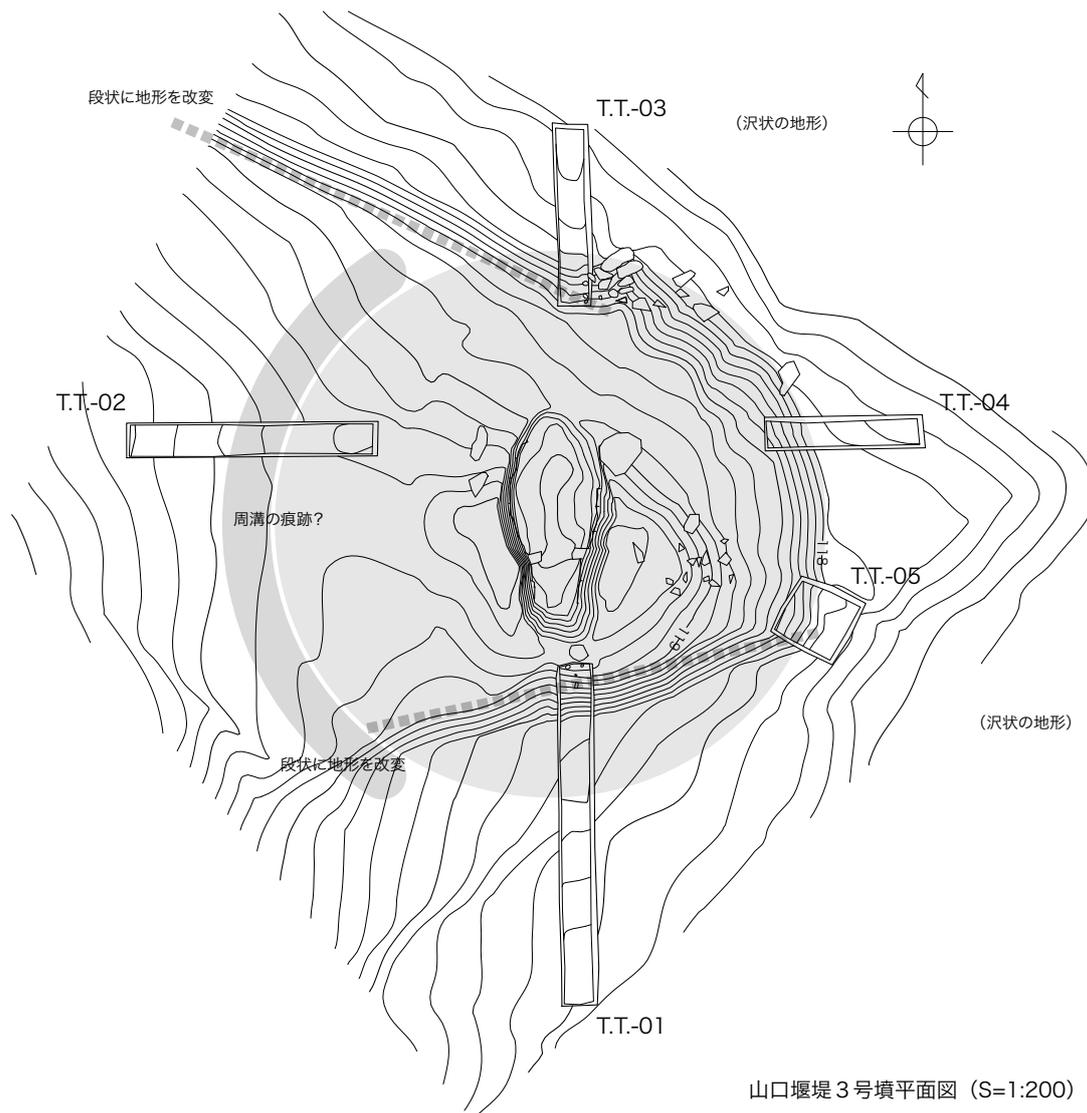
**まとめ** 今回の範囲確認調査の結果、発掘調査に際しては、遺物の散布状況、古墳と自然地形との関係、古墳に関連する施設などが存在する可能性を考慮して、墳丘周囲の一定の範囲を調査対象とする必要があることが明らかとなった。(早野浩二)



T.T-2 作業風景



T.T-2 全景



現況



全景